

精神障がい者を対象とした競技性スポーツの実施・普及に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科
作業療法コース 教授

鎗田 英樹 Yarita Hideki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：精神障害・スポーツ・実施／普及



研究の概要

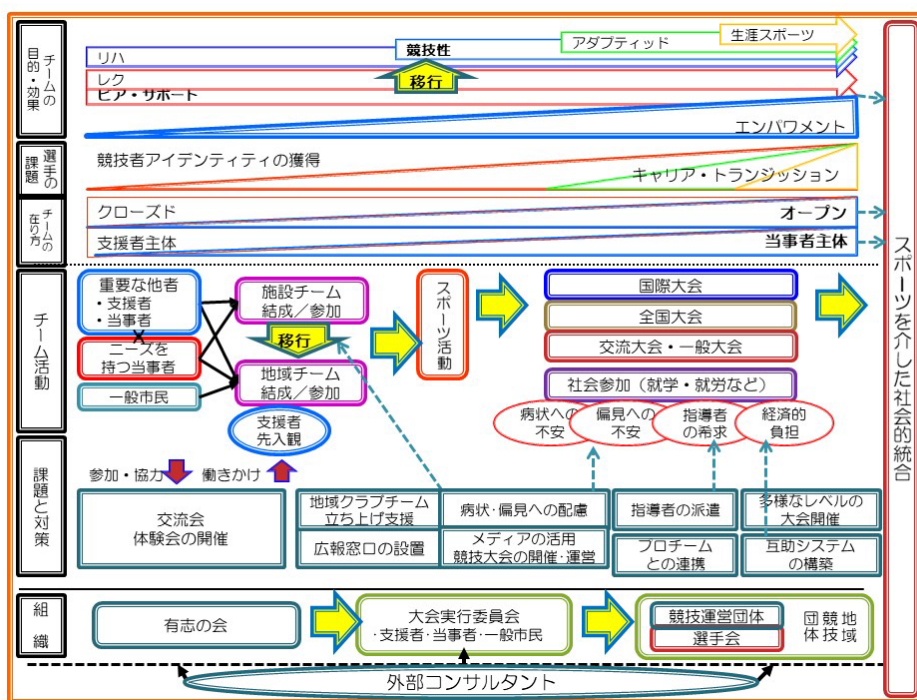
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

精神障がい者を対象とした競技性スポーツは、他の障がい者に比べ大きく出遅れています。2008年にバレーボールが、全国障害者スポーツ大会の正式種目となったことを契機に大きな進展を見せましたが、精神障がい者総数360万人に対し、まだ十分な実施・普及状況とは言えません。筆者はこれまでの文献調査から、支援者を対象とした調査はみられるが、当事者を対象としたニーズ調査は少数であり、当事者ニーズと合致した推進が実施されているか不明であることを明らかにしました。またスポーツに取り組む当事者選手や支援者から、競技に取り組むことの意義や目的などについて聞き取り調査を実施し、その結果から当事者選手が望む競技性スポーツの在り方を明らかにし、それと合致した実施・普及モデルを考察し、探索的に構築しました。現在は、当事者主体の地域型クラブチームを継続する上で必要となる支援要素について、研究をおこなっています。

近年、当事者主体型の地域クラブチームの設立が見られますが、継続できず解散してしまうことも多く、何らかの支援が必要であることがわかっています。

また世界を見てみると西欧諸国では精神障がい者フットサルが盛んであり、国際大会まで開催されていますが、アジア太平洋地域においてはどの種目がどの程度実施されているのか明らかになっていません。今後の実施・普及を考えると、現状を明らかにすることも重要な課題の一つと捉えています。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

精神障がい者にとって、スポーツをすることが人との交流を回復し、当事者の社会的統合やアンチ・スティグマにつながるなど、心身機能面だけではなく幅広い観点から重要な活動と見ることができます。また、当事者のリハビリの一助としても重要であり、当事者の就労や就学など個々の目標達成を後押しすると考えます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「精神障害者を対象とした競技性スポーツ実施・普及モデルの改善 ～支援者へのインタビュー調査から～」
- ・「精神障害者を対象とした競技性スポーツにおける実施・普及モデルの構築～当事者スポーツ選手へのインタビュー調査を通じて～」
- ・「精神障がい者を持つ方を対象とした競技性スポーツの実施・普及に関する研究」